

# 松林分館の事業

「みんなで楽々家事」～洗濯・住居のメンテナンス・お料理・省エネ学習編～」

光熱費の値上がりが家計を圧迫していませんか。家庭から出来る省エネの工夫や、電子レンジの上手な使い方を実習し、燃料費の節約の方法などを学習します。また年末の大掃除に向けて床のメンテナンスのやり方や、重曹・石けんなどを使ったしみ抜き、セーターの洗い方などのお話を聞き、環境にも家計にも優しい、効率のよい家事を習得してみませんか。

■日時 11月10日・17日・12月1日・8日の日曜日  
午前10時～正午(全4回)

■場所 公民館松林分館  
■対象 市内在住、在勤の方  
■定員 先着25人講師 木内茂二氏(全国クリーニング組合講師)、ほしのでつ氏(DIYアドバイザー)・一條美智子氏(エコアドバイザー)・不破美穂子氏(料理講師)

■費用 無料  
■申込み 10月18日(金)午前9時から松林分館へ。

講座の申し込み、問い合わせは、公民館松林分館  
☎042-552-3624へ。

## 講座参加者の声

「みんなで楽々家事」7月に「収納編・お掃除編」を行いました。参加者の加藤彩子さんの感想です。  
「松林分館・楽々家事講座を受けて・・・」

家事の合理化を進めている矢先にこの講座に出会えたことは幸運だった。講座では家を綺麗に整えることは時間的・精神的・経済的効果があるという理論にはじまり、物の要らない見極め方、手放し方、消耗品の在庫の目安など細かく学んだ。暮らしの動線を考えた物の配置、物の嵩を減らし、物を探す時間の短縮化、無駄な歩数や動作を減らす工夫といったシステム化をさせることが楽々家事への第一歩。ということ、水を入れてから火にかける鍋はIHコンロ下ではなく、流し台の下にしまうのがベストという小宮講師。課題が出たので、早速キッチン内を整理して写真に納め、翌週はその写真を受講生の間で見せ合い、状況をシェアした。世代別にみな

さん持っている悩みはそれぞれということも勉強になった。漠然と一人で悩んで、考えていた時よりも、プロの講師からアドバイスをもらい、出会った仲間との情報交換によって私は今、現代風の暮らしやすさを手に入れた。

子どももの成長と共に、楽々家事(時短)のシステム化は節目節目で変化を求められるが、今はそのシステム化をあれこれ考えるのが楽しみで仕方がない。



写真7月の講座

寿生きがいひろば

「稲穂でつくる縁起物」

お正月に向けて、今は珍しくなった稲穂を使い、縁起物の亀や来年の干支の馬を作ってみませんか？

制作した作品は、「人生うたい語りのつどい」12月13日(金)市民会館小ホールで展示します。  
■日時 11月14日・21日・28日の木曜日 午後1時30分～4時(全3回)

■場所 公民館松林分館  
■対象 市内在住・在勤の方  
■定員 先着10人

## 講師

近藤富代子氏

(福生萌芽会会員)

■費用 300円  
程度※初回に集めます。

■申込み 10月18日(金)午前9時から松林分館へ。



公民館のつどい

「公民館再発見」

～楽しさ・学び・ひろがり～  
■日時 11月23日(土)午前9時30分から正午まで

■場所 市民会館公民館第4・5集会室

■どなたでも参加できます。みんなと話し合いませんか。

公民館のつどい副実行委員長

小野 豊

(福生アマチュアマジッククラブ)

今年の公民館のつどいは「公民館再発見」をテーマに、公民館は私たち市民にとってどういった存在なのであろうか？ 既に日頃からいろいろなサークルで活動されている人たちにとって、今一度、公民館での活動を見直すのはどうでしょうか？「楽しさ」「学び」「ひろがり」について参加者と一緒に考えていきたいと思えます。みなさまの参加をお待ちしております。



# 「夏休み子ども教室」に延べ111人の子どもたちが参加しました!



「消しゴムはんこ」名前のはんこを作りました。作品はだれでなんでも展で展示します。8月25日(日)開催。



「歌ってあそぼう」(動揺・わらべ歌遊び)大人も子どももいっしょに遊びました。8月24日(土)開催。

今年もサークルの皆さんにボランティアで8講座、10日間の教室を行っていただきました。「浴衣着付け」、「生け花とスケッチ」、「おじいちゃんおばちゃんから昔話を聞こう」、「ビーズ教室」、「飛び出すカード」、「はっぱでカタツムリをつくろう」、「歌って遊ぼう」、「消しゴムはんこ」。たくさんの子どもたちがサークルの皆さんと学習をとおして交流を深めました。



「夏休み子ども教室」参加者の牧野明日華ちゃん(小1)の感想です。

★ビーズ作り:きれいな星ができてとてもうれしかった。

★はっぱでカタツムリ:熱帯魚がうまくできてうれしかった。

★消しゴムはんこ:カッターで消しゴムを切るのがお料理をしているみたいで楽しかった。

熱帯魚の最初を作るのが一番難しかった。

2年生の夏休みも参加したい。

幼稚園で一緒だったお友達にひさしぶりに会えたのでうれしかった。

夏休み子ども教室では「さつきひろば」の皆さんから昔の話や遊びを二日間にわたって伝えていただきました。

「さつきひろば」の山口勇さんの子どものころの体験や遊びの紹介です。

私は、昭和10年5月に東京市新宿区早稲田鶴巻町で生まれた。昭和16年4月東京市鶴巻国民学校に入學、この年から尋常小学校から名称が変わった。学校の運動場の隅に二宮金次郎の銅像があった。

昭和19年になると、戦争が激しくなり空襲があり、近くのビルに焼夷弾が落ちた。子供だったので、飛行機が珍しくて見えて、親からすぐ怒られて急いで防空壕へ入れられた。飛行機の翼にアメリカのマ

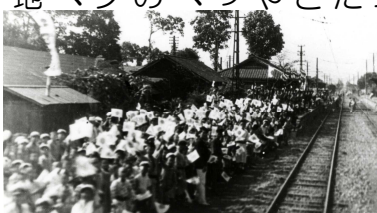
イクがはつきりと見えていた。学校単位で集団疎開することになり、親は、子供と離れ離れになるのはかわいそうだと、昭和19年8月遠い親戚を頼って、山梨県中巨摩郡百田村百々現南アルプス市へ家族と共に疎開した。

## 戦中の子どもの遊び

子どもたちの遊びも戦争の影響を受けて、男子の間では兵隊ごっこなどに人気があった。女子には看護婦ごっこなどに人気があった。戦争中はあらゆる物資が統制の対象となっていたので、子どもたちの遊び道具も贅沢なものや軍事物資となる金属やゴムなどを材料としたものは真つ先に姿を消した。

## 戦後の遊び

昭和20年11月23日、神宮球場で開催された東西対抗戦からプロ野球は再開された。「青バット」大下弘、「赤バット」川上哲治が人気を二分し、子どもたちの間で野球遊びが流行した。革製のグローブやバットなどの野球道具は高価だったため、子どもたちは木や竹の棒をバット代わりにし、母親の手製の布製グローブなどを使って、空き地や路地



当時の福生駅から兵隊を送り出す。

で野球に熱中した。進駐軍の放出する空き缶を再生したブリキ製のおもちゃが登場したり、映画の影響でチャンバラごっこやブリキの鉄砲を使った西部劇ごっこも流行した。

## サークル紹介 舞踊クラブみのり会

少数ながら「みんなで力を合わせ」を motto に日々、練習・活動しております。



地域の夏祭りには町会の方々と盆踊り、福生七夕まつりでは武蔵野台児童館の皆さんとチームを作り、パレードに初参加しました。

今年の松林のだけれどもなんでも展では、10月19日(土)午後3時30分から演説発表いたします。

11月30日(土)午後2時30分から福生市民会館小ホールで「和の饗宴」と題しまして、歌と踊りのコラボレーションを発表します。入場無料ですので、ぜひ、見て聴いてください。

- ▼練習日 第2、第4土曜日、第3金曜日
- ▼代表 白方とも子
- ▼指導 齊藤キヨ子(今泉紫穂実)